

被災地のママたちの声

「ママサロン」・「赤ちゃん訪問」から

二〇一一年十月～二〇一二年十二月の

「ママサロンこそだてシップ」と巡回「赤ちゃん訪問」の活動から

○出産後まもなく、市役所勤務の夫が津波で流されました…。

○実家も実母も流され、自分の周りに育児を相談出来る人が誰もおりません。

○自分の家も実家も流され仮設に住んでいきます。私たちは頼るところがありません。

○津波で実母がなくなつたのに、姑さんの心無い言葉に傷ついています。

○実家も、自分たちのアパートも流されました。夫は自分の実家に帰つたきり戻らず離婚しました。

○仮設住宅で育児をしています。周りの人に、三人の子供がうるさいと市役所に通報されました。見回りにきた福祉協議会の相談員さんに、「あなたの赤ちゃんの泣き声で具合が悪くなり入院した人がある」と言われました。もう少し子どもの側について育てたいのですが、もう限界かなと保育園に入れて働き始め

ました。

○災害後は夫の帰宅が遅く育児の悩みを聞いてもらえない。誰にも聞いてもらえないので、疲れてしまつて今離婚を考えています。

○仮設住居に移ってから、上の子が盗癖で悩んでいる。

○子供が泣くと胸が苦しくなる。夫は外ではニコニコしているが、家の中で暴力をふるう。

○子供を遊ばせるところがない。瓦礫はなくなつたが、外で遊ばせると、ガラスを手に取つていたりするので危ない。海岸の散歩も危険で出来なくなりました。

○もともと母親と不仲だったので、母親といふものの見本がないので育児が分らない。

○災害で親戚ともあまり行き来しなくなつたし…。

○被災し、夫が失業して県外に働きにでていきます。仮設で、はじめての育児を一人でしています。実家の母が時々きてくれるが、ほとんど毎日子どもと二人暮らしです。

○流されて一台の車しかなく、夫が仕事から帰るまで何処にも行けません。

○被災して車も流され、家族で身動きがとれなくなっている。

○転入してきた。盛岡などは車がなくても子供を連れて出歩くことが出来、運転免許がなくともいいが、ここでは車がないと暮らせないし、何もできないし、ママ友もできない。

○転入してきた。ここは子供を連れて冬の運転は怖いし、標識もないので冬は出ないようになっています。

○震災後は交通が不便になって、サービスや支援を受けられる場所まで行けない。



カメラアホール「ママサロン」

○町から離れていると情報も遅く、支援のあることも知らないでいる。

○子供の一人は四歳もう一人は二歳未満のため、子ども対象の支援があっても車がないので、その場まで二人連れて行けない。

○家族（高齢者）と子供の世話で、出かけることが難しい。支援受けにも出られない。

○娘が働きに出ているので仮設住居で孫を育てているが、狭いし危なくて大変です。

○全て流されて出産準備が大変だった。「ママサロン」を知っていたらもっと早く来た。

○仮設で子どもの泣き声がうるさいと怒られ

た。市役所にも通報された。

部屋は狭くて遊ばせられないし、隣にとても気を遣っている。外は石がごろごろして危ないし。何処に行けばいいの……。

○仮設住居なので娘が里帰りできない。産後の世話のため県外のアパートまで行かねばならない。

○両親の仮設住居にある日突然、娘が上の子供を連れて玄関に立っていた。東京で育児に疲れ、妊娠五ヶ月で夫に無断で戻った。鬱状態で、こどもを虐待しそうと自分から言う。

○切迫流早産で入院を繰り返す、持病のある高

齢初妊婦。被災し借り上げアパートで義父、義兄、夫婦暮らし。義父痴呆気味。移動手段なく引きこもり状態。

○転入してきた。被災地で何もなく育児も楽しくない。早くここを出て行きたい。

○お産準備に車で隣町まで行った。今も市内で赤ちゃん用品が揃わない。

○津波でママ友が亡くなった。自分の子どもを見るとつい思い出し考えこんでしまう。

○県外の実家でお産。おっぱいが出過ぎて助産院に通った。こちらに来て頼る所がないので、三ヶ月実家の世話になってきた。

被災地支援ボランティアの声

カメラアホール・米崎コミセン

二〇二二年五月二日

初めて参加しました。たくさんのお母さんがいらして、和やかな集いでした。助産婦さんやお母さん方の子どもをあやす姿を見て、こちらが学ぶことが多くありました。

ありがとうございました。（宮澤さん）

始めて参加させて頂きました。助産婦さんの助言のもと、楽しく赤ちゃんとお母さん方と関

わらせて頂きました。ありがとうございました。

（高橋さん）

GWのためか、今日は参加者も少なめでした。ベビードダンスとても楽しそうでした。ママ達もゆっくりお茶できてよかったです。

スタッフの皆様、いつもありがとうございます。遠方から参加のボランティアの皆様にも感謝です。（吉田さん）

素晴らしい機会を与えて下さり、ありがとうございます。スタッフの方々の温かいサポートに感謝を受

けました。（野田さん）

念願であった大船渡でのベビードダンスス

ンができてとてもうれしく思います。お呼びだ

二〇二二年五月十五日

「子育てシップ」楽しく参加させていただき
ました。

赤ちゃんの表情を見ているだけでこちらが多
くの笑顔をいただきました。あちこちでママ友
の輪が広がり、嬉しいですね。

しかし、一人で、どうかかわっていったら良
いのか？というお母様も見受けられました。な
にか受け止められる良い方法があるといいです
ね。

(加藤さん)

二〇二二年六月六日(水)

「久しぶりにゆっくりとお茶を飲みました。」
という言葉がとても嬉しかったです。来て良
かったと思いました。

(藤田さん)

正直疲れました。でも楽しかったです。

沢山の赤ちゃんにパワーを頂きました。

(石塚さん)

私も一人の母親。子育ての時期を思い出し、
こういう機会があるのは母子共に良い時間だと
思いました。

(橋川さん)

乳児の可愛さを思い出し、楽しかったです。

たくさんの子供達と遊び、お母さん達とも話
ができてよかったです。これからも、子供達が
のびのびと遊ぶ場があるように祈っています。

(大橋さん)

二〇二二年六月十九日(火)

たくさんの子供達と遊んだり、だっこさせて
もらい、心地良い時間をすごさせてもらいまし
た。ありがとうございます。

お母さんの笑顔もうれしかったです。

たくさんのお母さん、子供達が来られ、こん
なにたくさん母子がいると、びっくりしました。

お母さん共に笑顔で育っていられる事を祈って
います。

(竹内さん)

初めての参加でしたが、賑やかで楽しく過ご
させて頂きました。

何度か通っているお母さんが、ここで新しい
動きをするようになった、人に慣れてきたとの
言葉があり、続けていく良さを感じました。

これからもコミュニティの輪が広がることを
願っています。

(鈴木さん)

初めての参加で、とまどう所もたくさんあり
ましたが、たくさんの子供、お母さんとお話が
できてとても楽しく過ごさせて頂きました。

何度も参加している方も多く、「前は泣いて

の成長も見
られていた
り、いつも
と違った環
境で子供が
伸び伸びし
ているなど
の言葉があ
り、子供を
育てるのに
大切な場にな
っている
んだなと感じました。

(隅広さん)

二〇二二年七月十七日 コミセン

お母さんと子どもが集い、お母さん同士で話
をしたり、子どもたちが広いスペースで同年代
の子ども同士で遊んだりして、第三者が加わり、
母と子が少しでも離れて、皆で楽しい時間が持
てる良い機会だと思う。

久しぶりに赤ちゃんを抱っこして、エネル
ギーをもらいました。

おやつも砂糖を控えた健康おやつが多くて、
とても良いと思う。

想像していたよりも多くの親子が参加してい
て驚きました。お母さん同士の交流の場でもあ
り、子供同士の遊びの場ともなっていて、すご



ボランティア達のミーティング (カメラホール)

り、子供同士の遊びの場ともなっていて、すごく良い場になっていると思います。

「広くて子供がのびのびと遊べる」「他にも見ていてくれる人がいて安心」など、お母さんたちにとっても子供にとっても精神的に楽になっていると感じました。私自身、日頃小さい子供と触れ合うことがないので、今日たくさんの子供たちと触れ合えることができて楽しかったです。ありがとうございます。

(岩手県立大学看護学部4年 高橋さん)

始めて参加させて頂きましたが、とても楽しく参加することができました。年齢別でプレイルームも確保すると安全に遊べると思いました。

(城間朝旭さん)

二〇一二年八月一日 カメリア

とても心配な気持ちで参加したのですが、子供さん、赤ちゃんもあまり人見知りなしでとてもなついてくださったので、とても楽しいボランティアでした。ありがとうございます。

(カリタスジャパン 久松カズエさん)

始めて母親と赤ちゃんのこのようなサークルのボランティアに参加することができたことを感謝しています。

若い母親たちが、子育てを必死になっている

姿がとても印象的で、勉強になりました。ありがとうございます。

(カリタスジャパン 平山和枝さん)

お母さん達、子ども達の笑顔に励まされました。互いに話すことで緊張していた方々も、帰るころには心身ともに元気になられたことと思います。ボランティアに参加できてよかったです。ありがとうございます。

(カリタスジャパン 道下絹江さん)



ボランティアの大学生達 (カメリアホール)

I was very happy to meet many very nice people and cute babies today. I appreciate those who try to speak English with me. I also liked getting to know some new people.

(Christine Chin)

Today was very fin! The kid was cute and everyone was very nice. I loved helping out in I could. The people I met was very awesome too. God bless!

(David Chin)

今日は初めて参加させていただいたのですが、赤ちゃんとゆっくりあそぶことが出来て楽しかったです。お母さんとも話すことが出来て傾聴ボランティアの必要性も感じました。また機会があれば参加したいです。(瀬知行さん)

二〇一二年九月四日 カメリアホール

普段このような子どもたちと触れ合う機会がないので、ボランティアとか抜きにすごく楽しくかったです。ママさん方だけでなく、スタッフの方々や宗さんのお話なども胸にぐっと来るものが大変多かったです。私も将来子どもを持つたらこんな場に参加したい!!

とても素敵な広場だと思えます。これからも頑張ってください😊!ありがとうございます (☆愛媛出身 カリタスジャパン 井上葉さん)

久しぶりにこの年の子どもたちと触れ合うことができました。みんなとてもカワイくてとてもいやされました!!大変なこともありましたが楽しかったです。

(鹿兒島からの池之上直美マーガレットさん)

お母様方と直接お話しする機会をいただいたこと、ネットワークを知ることができたこと沢山学びました。ありがとうございます。また来たいです。

(池田千帆さん)

二〇二二年十月三日 カメリアホール

赤ちゃんと一緒に遊べてとても楽しかったです。とてもやわらかく、とてもよいにおい、こわれそうできて又、力を持っている、生きる力を感じながら、ステキな時間でした。ありがとうございます。

(長谷川光子さん)

子育てに励む若いママ達の情報交換、ひと息する場として、大切な場だと思いました。

これからも、頑張ってください。又、お手伝いしたいです。

(松田真弓さん)

赤ちゃんと若いお母さん達と出会えてうれしかったです。

それぞれがリラックスできる場がもてている

ようで、これからも続けて下さることを願っています。

(大橋順子さん)

二〇二二年十月六日(火)

まだ、私は結婚も妊娠もしていませんが、ママさん方や助産婦さんのお話を聞けてすごくいいお話や体験をさせて頂きました。ありがとうございます😊

このような活動が岐阜にもすすめられたらいいなあと思うのでお話ししていきます。

お子さんの笑顔にいやされました♡皆様もお元気にこれからもがんばってください。ありがとうございます。

(成瀬結衣さん)

二〇二二年十一月七日(水)

思ったよりたくさん赤ちゃんが一才半までの子供たちがいて、かわいいのとやっぱりちよつと気をつけなければいけないのと、とまどうこともありました。でも子供たちはこれらの希望ですのほんとうにここでスクスク育ってほしいと思いました。若いお母さん方もいろいろ子育てについてどうしてほしいかと思っ

ていらっしやるようなので、このようなサロンはとても大切だと思います。皆様がこのようによいサロンを続けていかれるようお祈りします。

(カリタスベース 梅村祥子さん)

初めて活動に参加させて頂きましたが、お母様方がとても楽しそうになさっていて、有意義な活動と思いました。自分の若い頃にこんな集まりがあったら良かったのと思いました。話を聞いてみると、普段は子供と二人だけという方もおり、同じ子を持つ母親同士の良い情報交換の場にもなり、孤立を防ぐ意味でも大切な会だと思えます。

(カリタスベース 植木二葉さん)

二〇二二年十二月五日

初めて活動に参加させて頂きましたが、最初ママからピツタリとくっついていて子が、とても後半に表情豊かに遊んでいる姿をみて、やっぱりこういう場所って大事ななだと思えました。お母さんが安心してゆっくりできるようにする距離感って難しいなあとも思いました。

(町村治美さん)

二〇二二年三月九日

子供たち同士がふれ合い、楽しそうに遊んだり、コミュニケーションをとっており、見ているだけで楽しかった。保護者の方も、自分の子がお友達と遊ぶ事によって「こんな事ができるのか」「こんな表情見た事がない!」というのが発見されたりも思うので、とてもいい経験かと思えます。取材させていただきありがとうございます。

うございました。

(大船渡仮設支援事業 沢口さん)

二〇一四年三月五日(水)

今回は、初めてママさんサロンに参加させて頂きました。

とても多くの方が遊びに来られて、お茶を飲んでママさん同士で交流されていました。

大船渡のママさん方の大切な交流の場、情報の場、いやしの場、気軽に来られる場となっているのです。とても素敵な活動だと思います。

そして、こんなに多くの赤ちゃんがいる場にいる事は初めてで、会話で意思疎通が出来ない赤ちゃんはどう遊べばいいのか悩みました。ぐずる赤ちゃんを前にあたふたしてしまう私ですが、それを一瞬で元にもどす「ママ」は偉大だなあーと思います。

赤ちゃんをだっこさせてもらいました。その子は大人しくて泣かないでいてくれました。

赤ちゃんの温かみと重さを感じました。遠くない未来に、私も赤ちゃんを育てる日が来ると思うので、今回のボランティアに参加出来る良かったです。ありがとうございます。

(石田理津子さん)

二〇一二年三月五日(火)

今日は初めて活動に参加させて頂いて、とても充実した一日になりました。私が思っていたよりも多くのお母さんと子供たちが参加されていたことにも驚きました。お母さんにとっても子供たちにとっても良い活動だと思います。私はまだ学生なので、日常生活を送ってはいできないような体験をさせていただいたことに感謝したいと思います。また、多くのお母さん、子供たちから多くの笑顔をいただきました。ありがとうございます。

(小佐川千明さん)

二〇一三年三月五日

ボランティアの感想文

□長く続けられていて、参加しているお母さんたちの集まりがいいコミュニティになり、出会うの場、交流の場となっていることがよくわかりました。

被災した人だけでなく、震災後にご主人の転勤等で大船渡に移ってきた方たち同士のいい交流の場になっているようです。

ママたちのために、ママ同士が交流できる場として継続して行ってほしいです。

□細やかなガラスの破片等がまだ飛び散っているという不安から、外で遊ばせられないというお母さんたちは、サロンを子どもたちを思

いっきり遊ばせられる場と考える参加していることも多く、子どもたちを楽しませられる場としてお母さんたちもホッとできています。

□東京にいと遠すぎて、なかなか想像できなくなってしまうですが、岩手の沿岸部で、インフラが破壊された地域でも、遅く生きたがらも孤立しがちで、助けを必要としている、あるいは他者との出会いを必要としている人がたくさんいて、どんな地域にも、人のつながりがこそ重要で、人がつながることによって安心を得たり、仲間を得ることが、人の助けになっていくということを今回のサロンに参加して再確認しました。

人の繋がりは一朝一夕ではできず、細くとも長い活動が必要であるということ、その理念を忠実に進め、長くここまでいい活動をされている子育てシッパのみなさんに本当に敬



米崎コミセン「ママサロン」スタッフと赤ちゃん



米崎コミセン「ママサロン」スタッフと赤ちゃん

意を表します。

□私は個人的に子どもを相手にするのが（まだ？）得意でないこと、普段いる拠点が遠く離れていることから直接的な支援は私向きでないと思いますが、人材紹介やアイデアを通して何かお力になれるよう、今後目指していきたいと思っています。

□今日は、あまりちゃんとしたお手伝いにもありませんでしたが、うけいれてくださってありがとうございます！（木村歩美さん）

四月十七日

・子育ての時期は家族のサポートが必要なのに相談したり、外出できないで、ストレスを抱えている母親が多いことをいつも憂慮していました。

こういう取り組みがあると、育児の悩みだけでなく日頃の世間話をするだけでキツとできる場があるのだと、お世話をされる方々（外部からではありませんが）感謝いたします。

・震災でたいへんな被害を被った方々が少しでも悩みや苦しみを忘れられる場所になっということが安らぎに感じます。

・他所から多くの支援物資が届いているのも驚きです。継続して支援して下さるのは有難いことですね。

・泣いている赤ちゃんをさらに泣かせてしまいました。かわいい姿に、力をいただきました。（カリタス 加賀和美さん）

四月二十一日

はじめて参加させていただきました。高齢化少子化といわれる現代にあって、多くの幼な子と若いお母様方の中に入れていたひと時はとても嬉しいものでした。子育ての経験のない私は、

何の助けにもなりませんでしたが、つかの間コーヒーを飲みながら交流をしておられたお母様、被災の様子を語ってくださったお母様から、色々な状況にありながら精一杯子育てをしてい

らっしゃることがよく伝わりました。被災というものがなくても、今、このような「サロン」は子育てをしていく上でとても意味があると感じました。

ここから各地に実践を発信されることもとても大切だと思います。

今後の活動に、神戸の地から応援しております。祈りと感謝をこめて（萩原登久子さん）

四月十七日

今回参加されていた親子の様子で感じたことは、お母さん方がゆつくりしたいのではと思われた。お子さんを預けて、親同士でお茶をしながらゆつくり出来るこの場で安らげているように思われた。

又、お母さん方へスタッフがお声がけをしながら、お話を聴いてあげたあと少し「ホツ」とされているお顔もありました。月1での活動に参加されている親子は、ここでの居場所があることで現在心の憩いの場になっていると思われる。お子さんも、大人だけの所ではなく、同じ様なお子さんがいることでお互いに成長していけると思われます。

これからは、具体的な問題を聴いてくれる人、又、それに寄り添ってくれる人がいると自立に向かう一助となるかなとも思いました。一日ありがとうございます。（菅野よしさん）

特別寄稿〔2〕

「被災地岩手における舌・喉頭矯正手術（CGL）症例」

助産師有志の会「こそだてシップ」

山本 正子・手島祐香里・渡邊 寛子・伊藤 怜子

一般社団法人ジェスペール

宗 祥子 東京都中野区松が丘一―十一―三



緒言

二〇一一年三月十一日に日本における観測史上最大となるマグニチュード九・〇、最大震度七の地震が発生した。この地震により、北海道から東北、関東地方の広範囲に及ぶ大津波が発生し、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらした。また、大津波以外にも、液化化現象、地盤沈下、大規模な火災等が発生し、電気・電話・上下水道等の各種ライフライン及び鉄道等の公共交通機関が停止する被害が発生した。周知の通り、被災地では行政自体が壊滅的状况に追われ、保健所の機能も同様である。

その緊迫した状況から、東北地方のなかでも大きな被害がもたらされた陸前高田市や大船渡市の助産師が立ち上がり、東京都助産師会の協力をもとに、前述の地域で母子支援をたちあげた。これが、我々の民間団体「ママ&ベビーサロン大船渡・陸前高田 こそだてシップ」であ

る。我々の具体的な活動としては、震災七か月

後から上記二市にて、乳幼児をもつ母親や家族が集えるサロンを運営し、さらにその半年後には、交通手段や諸事情によりサロンに参加できない方々のために、「巡回こそだてシップ」を開始した。ただ地元の現状では、実際に運営し支援を行っている助産師もまた被災者であり、巡回訪問に充てる人員等の負担は計り知れないほど大きい。また、震災から年月が経過すると、さまざまな側面からの後方支援は打ち切られる一方である。そこで、現在では東京に本部がある一般社団法人ジェスペールが行っている東日本大震災での被災地域等の妊産婦による子育てを支援する「東北こそだてプロジェクト」から後方支援を受け、関東の助産師が現地に足を踏み入れ活動をしている。

現在の「巡回こそだてシップ」の機能では、保健所が訪問までたどりつけない母子の訪問を行ったり、要支援の母子をみつけだし保健所に

報告し連携を図ったりするなど、行政と母子の隙間を埋めるような活動を展開している。そこで今回は、その巡回訪問で出会ったA児（当時生後二か月）の舌・喉頭矯正手術（以下、CGLとする）に至った症例について報告する。

対象

平成二十四年九月十七日時点、A女児は生後二か月。母親の妊娠経過には異常がなかったが、前回帝王切開の既往があったため、分娩形式は帝王切開術にて出生した。A児の出生体重は二六〇g、出生身長四六・五cm、在胎週数三十八週一日と、異常は認められなかった。家族背景として、A児は現在六人暮らし（祖父母、父母、長男心臓病にてペースメーカー挿入し療養中）である。また、A児の居住地は被災地域であったが自宅は山手のため津波被害は受けていない。

経過

〈初回訪問初日〉

「巡回こそだてシップ」に、三歳の心臓病を抱えた男児と生後二か月の女児Aの二人の子をもつSさんから「二か月の子どもがミルクを飲めない」と一報が入った。それまでの地元病院や新生児訪問をした地元保健師の関わりでは、「体重増加に支障はきたしているものの異常な

「し」との判断であった。しかし、A児はミルクを二十ml飲むのに、ゆうに一時間はかかっていた。また、さまざまな乳首を使うなど、母親自身ができることは実践していた。

「巡回こそだてシップ」が訪問すると、A児に舌癒着症（以下、ADELとする）兆候が多数みられ、長男の療養をしながらA児の痲癢や授乳に、A児の母親はノイローゼ寸前であった。母親から「この子の舌、短いからミルクが飲めないんですか？」と切り出されたこともあり、初回の関わりであったが、ADELの可能性が あることを母親に伝えた。母親は、「やっぱり何かできることってありますよね。皆、このまま様子をみてくださいと言われて途方に暮れていました」と涙した。そして、当日に説明出来る児が受診できるための情報を渡すことを約束し、訪問終了とした。

表一はCGL前のA児の症状を示す。
〈初回翌日〜CGL当日〉

【表1】

症状
・日齢相当のミルクが飲めない
・痲癢を起すことが多い
・寝かしせるとすぐに起きる
・手足が赤っぽい
・盛り赤
・向き癖
・唇の色が青っぽい
・顔の色が青っぽい
・嘔吐が頻回

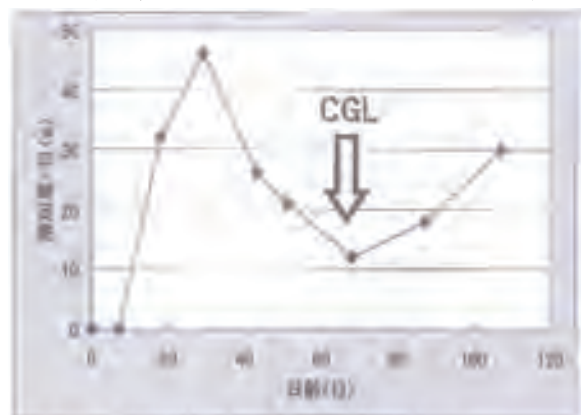
翌日、向井診療所に電話し予約状況を確認した。また、A児の家族は

【表2】A児の出生後の経過

日齢	日齢	A児の症状と経過	体重	日齢
11月4日	7月16日	出生	2600g	-
25日	7月27日	入院中、哺乳開始がわかり、母乳は足りず。	3500g	-
30日	8月1日	体重増加不足のため、ミルク追加。		
49日	8月19日	退院。これを機に母乳消費は中止した。ミルクは一日に30mlしか飲めないため、一日中ミルクを飲んで一日量を確保していた。	4700g	72g/日
16日	8月29日	1か月検診。体重増加に問題はないと認められ、時間を決めてミルクを飲むように指導された。	5250g	45g/日
30日	9月12日	保母館による新生児訪問。痲癢が激しくするため、保母館による指導が必要と判断。巡回こそだてシップの緊急連絡先に報告した。	5755g	50g/日
49日	9月21日	巡回こそだてシップ訪問。一日にミルクが30〜40ml位しか飲めず、日中泣きながらミルクを飲んでいる状況。CGLの開始を促された。	6310g	51g/日
56日	9月28日	時間を決めてミルクを飲むようにすると、一日に体重増加量は増えていった。巡回こそだてシップへ転院。CGLを受けた。	6300g	15g/日
10月16日	9月27日	巡回こそだてシップ訪問。ADEL症状改善しており、ミルクへの消費が増加していた。	6500g	15g/日
11月20日	10月21日	巡回こそだてシップ訪問	6100g	40g/日

被災地でありながらも自宅は無事であったが、障害者手帳一級の長男を療育している家庭のため、何か金銭的な支援ができないかと「一般社団法人ジェスペール」

に連絡をした。その結果、ジェスペールが交通費や宿泊費などの援助の申し出をしてくれた。以上の情報をA児の母親に伝えたが、母親自身もA



【図1】A児の日齢による体重増加量の経過

DELEをインターネットで調べれば調べるほど家族に説明が困難になったようであった。実際に、医療者でもADELを病気としていないことや賛否両論であり、一般の方に直ぐに理解してもらうには壁が大きいようであった。そして、さらに被災地である東北地方からの遠距離の来訪などの問題もあった。そのため、ジェスペール代表が助産院経営者ということもあり、ADELについて正しい情報提供を父親に直接電話を入れて説明をした。すると、両親から手術を受けたいと一報が入り、初回訪問から一週間後の日に向井診療所のCGL予約を入れることができた。

〈CGL当日から一か月検診まで〉

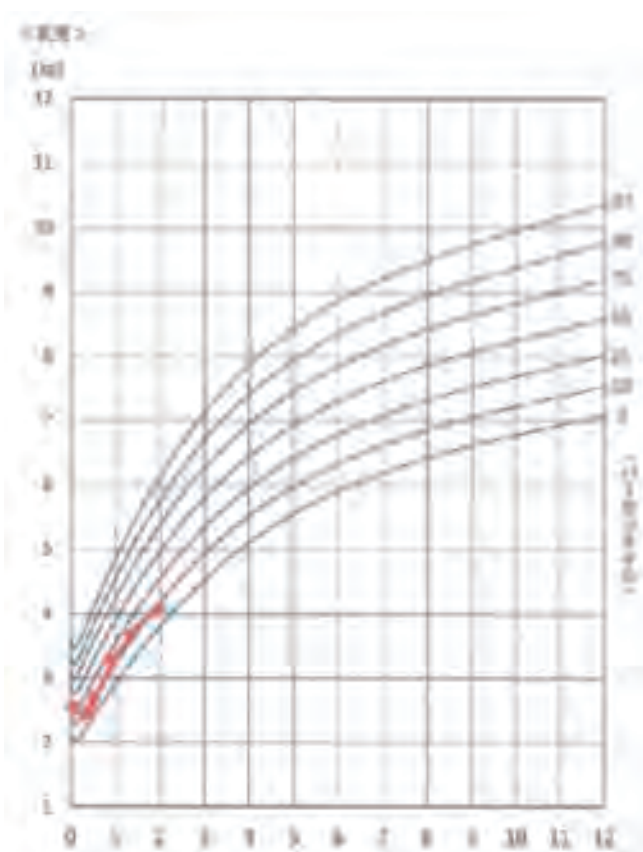
A児は、両親とともに向井診療所を訪れた。診察結果はADEL分類(三・三)であり、当日午後にはCGLが行われた。CGL直後から、A児の一回哺乳量は二〇mlから四〇mlと増加し、術後二日目には五〇ml、術後四日目には一〇〇mlを一気に哺乳できていた。さらに、母親を悩ませていたA児の痙攣は落ち着き、「授乳のストレスが減りました」との声が聞かれた。さらにCGL前は、手足がまっすぐに体幹が反り身であったA児を抱いてあやすのが困難であったのが、身体の緊張がとれ丸く抱かれ落ち着いているA児の姿がみられた。

術後一か月検診では癒着などはみられず、良好な経過であった。

表二はA児の出生後の経過、図一はA児の年齢による体重増加量の経過をグラフで示したものの、図二はA児の体重を発育曲線上で評価したもの、図三はA児の視覚による術後変化を示す。

考察

本症例は、CGL症例では良くみられる経過である。しかし、今日の育児環境においてCGL自体の周知に懸念されている状況のなか、さらに被災地という育児環境に制限が加わる場所でのCGLまでの道のりは非常に険しい。もうすぐ東日本大震災から二年経とうとしている今でも、隣近所との調整を図りながら仮設住宅で



[図2] A児の出生後の経過



[図3] A児の出生後の経過

の育児をしなければならぬ方々も多く、まだまだ乳幼児が集える場も少ない。このような問題抱えた被災地に、近郊でもADELの診断やCGLを受けられる場所があればと願うところである。もちろん、医療者へのADEL周知はいうまでもない。

一、A児の経過について

産後早期は母親役割習得の過程で身体的・心理的・社会的変化に直面する時期であり、母親の身体の不安・疲労に加えて育児に関する不安は多い。生後二か月になるA児の母親に初めて会った時、「育児が楽しくない、心配だ、拷問だ、ノイローゼになりそう」と話されていた。

実際の発育状況では、生後二か月のA児の一日の体重増加量からすると、二十一g/日であった。乳幼児の月齢別チェックポイントでも生後一〜二か月の場合、体重増加量十五g/日以下の場合に機嫌や元気さなどを確認する、と明記されている(1)。A児の場合では、完全人工栄養で育てているわりには体重増加量は少ないという印象をもったが、直ぐに手だてを考えなくてはならない値ではない。また、厚生労働省乳幼児身体発育値での発育曲線(2)では三パーセントイル値以上であれば正常域とされている(1)。この評価でも、A児の場合では十パーセントイル値以上二十五パーセントイル未満であつ

た。しかし、一日中ならだとミルクを与えて続けないと哺乳量が維持できない状況、そして何よりも「ノイローゼになりそう」という母親の声が一番気がかりであった。「兵庫レポート」によると、育児での迷いや自信の無さは子どもが発達や親子関係にも良くないと言われている(3)。今回、もしこの母親の状況が続いていたならば、子どもの発達や親子関係に問題をきたすだけではなく、ひいては児童虐待などに発展する可能性もあったのではないかと推察する。

また、母親はA児がCGLを受ければよくないのではないかという希望がみえたことから、一日中ならだとミルクを飲ませるのを止め、時間を決めてミルクを飲ませるようにした。すると、一週間後には体重増加量は十二g/日と減っていた。今までの体重増加量は、退院から一か月検診まで四六g/日、一か月健診から新生児訪問まで二六g/日と問題に至らなかったのは、これもひとえに母親が何としても体重を増やしたいという母心で支えられた値である考える。母子保健の意義によると、母子の健康の保持増進による母子のQOLの確立を図る保健活動と明記されており(2)、このことから、医療者数字だけで判断をするのではなく、その裏に隠された背景などを考慮しながら母子のQOLをたかめられるように寄り添う必要があるだろう。

結語

今回の症例が関東近郊であったとしても、ADELの正しい知識をもった医療者は少なく、専門機関に受診するまで紆余曲折な道のりを辿ることが想定される。さらに、本症例のように被災地岩手になると、今回の経過は異例といえよう。今回、本症例を通して、乳幼児の保健指導を担う医療者へのADEL周知と医療過疎化が進む被災地へのさらなる乳幼児支援の二つの重要性を痛感した。

参考文献

- (1) 高野陽、柳川洋、中林正雄、加藤忠明：母子保健マニュアル改定七版、南山堂、二〇一〇
- (2) 厚生労働省HP、報道・広報資料 平成二十二年乳幼児身体発育調査の概況について、www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2t-9852000001t3so.html
- (3) 原田正文：子育ての変貌と次世代育成支援―兵庫レポートにみる子育て現場と子ども虐待予防、名古屋大学出版会、二〇〇六。



掲載の学会誌